

鼻に噴霧するインフルエンザのワクチン

インフルエンザは特に高齢者と0～14歳のお子さんとで重症化しやすいウイルス感染症です。そこで、ワクチンによる予防手段があります。

昨年2024年10月に鼻の中に噴霧するインフルエンザワクチン（以下、鼻噴霧ワクチン）が発売されました。それまでは、注射のみでしたので、注射嫌いなお子さんには朗報です。特徴などを紹介します。



◎2歳以上19歳未満の方のみ接種可能

▶注射のインフルエンザワクチン（以下、注射ワクチン）は生後6ヵ月から接種可能ですが、鼻噴霧ワクチンは2歳以上19歳未満の方のみ接種可能です。また、積極的に吸入（鼻ですする）の必要はありません。

※注射嫌いな大人の方もみえますが、19歳以上の方には使えません。

また、2歳未満にも使えません。海外の試験では2歳未満に使用した後、入院及び喘鳴のリスクが増加したと報告があります。

▶注射ワクチンは13歳未満の小児では毎シーズン2回の接種と定められていますが、鼻噴霧ワクチンは1回の接種で済みます。

▶注射ワクチンは感染する能力がない不活化ワクチンですが、鼻噴霧ワクチンは毒性を弱めた生ワクチンのため、鼻の奥から喉の天井部分（鼻咽頭）で増殖し、自然感染と似た免疫が局所と全身に期待できます。ただ、飛沫や接触で感染する可能性があり、接種後1～2週間は、特に免疫抑制剤を使用している方や重度の免疫不全の方との接触を可能な限り避けます。

▶鼻づまりの程度にもよりますが、鼻噴霧ワクチンが鼻咽頭粘膜に到達しにくいと考えられる時は、鼻づまりが治るまで延期もしくは注射に変更など、医師と相談してください。

▶今までの注射ワクチンと同様に鶏卵にアレルギーのある方は注意が必要です。

▶添加物としてゼラチンが使用されているのでゼラチンに過敏な方は注意が必要です。

▶重大な副反応としてショック、アナフィラキシー、主な副反応として鼻づまり、
鼻水、咳、口や喉の痛み、頭痛等が報告されています。

接種には医師への受診が必須です。取り扱いがあるかなど先に確認しましょう。

予防には自身の免疫力もとても大事です。「元気がない」「疲れたな」と思ったら睡眠、食事、運動、気分転換などで自身の体をいたわってあげることも、とても大切です。



薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会 〒500-8146 岐阜市九重町4-5 <http://www.gifuyaku.or.jp> 岐阜県薬剤師会 検索